



徳島市民病院だより

徳島市民病院の理念
「思いやり・信頼・安心」

令和5年10月

36号

〒770-0812 徳島市北常三島町2丁目34番地 徳島市民病院広報管理室 TEL (088) 622-5121 (代表)

地域医療支援と連携強化のために

当院は、平成20年に徳島県より地域医療支援病院の認定を受けております。地域医療支援病院とは、一次医療を担うかかりつけ医を支援して連携を図りつつ役割を分担し、地域医療の中核的役割を担う病院のことです。

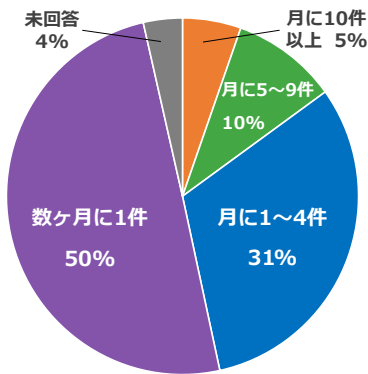
地域の医療機関との協力体制充実や連携強化のため、当院では以下のような取り組みを行っています。

■連携病院への訪問・情報共有 ■共同診療の推進、連携パス運用など ■地域医療関係者の要望把握、改善

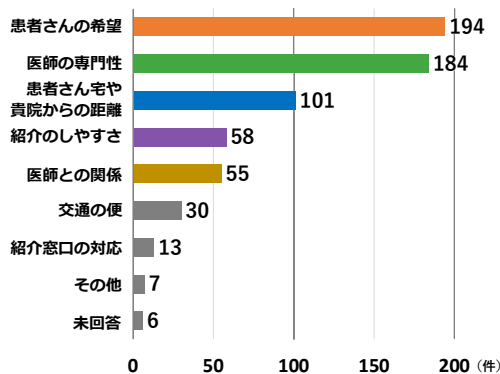
取り組みの一環である連携医療機関対象のアンケート調査については、今年度の配布数は734枚、回答数は279枚、回収率38.0%でした。調査結果は1～2ページのグラフに示すとおりです（一部抜粋）。 [2ページに続く](#)

地域医療機関対象のアンケート調査結果（一部抜粋）

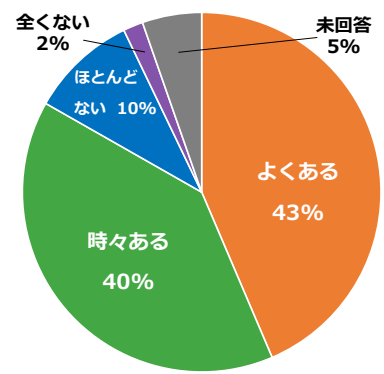
●当院への患者紹介はどの程度ございますか。



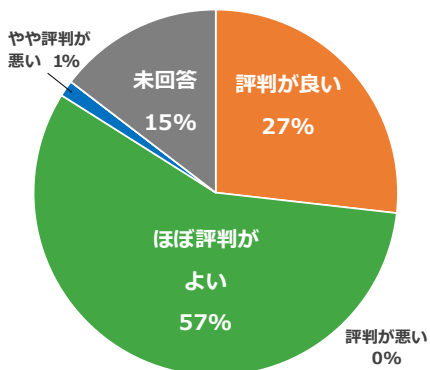
●ご紹介理由はどのようなものがございますか。（複数回答）



●ご紹介いただいた患者さんの逆紹介はありますか。

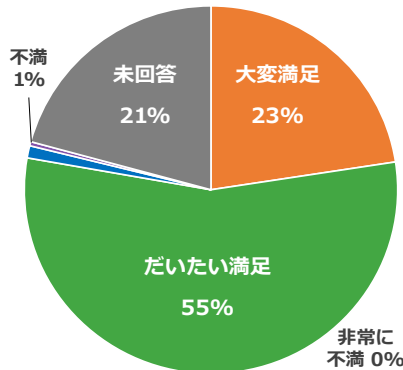


●逆紹介した患者さんの当院に対する評価はいかがですか。

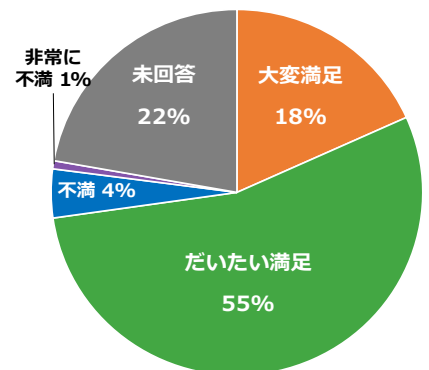


●救急患者さんの受け入れはいかがですか。

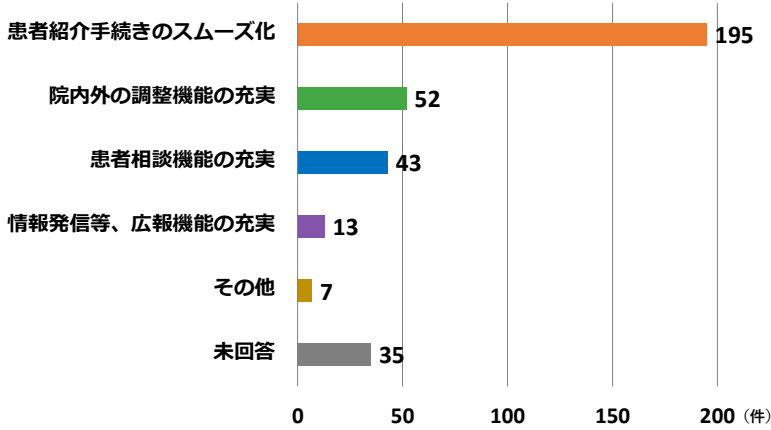
外科系の患者さん受け入れについて



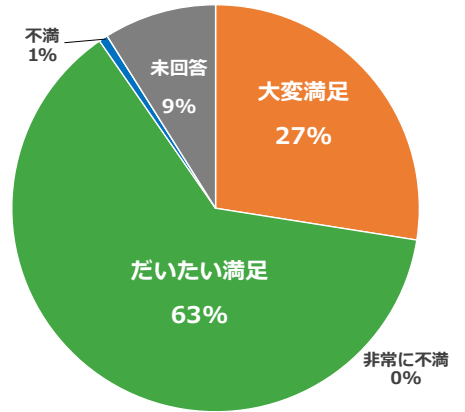
内科系の患者さん受け入れについて



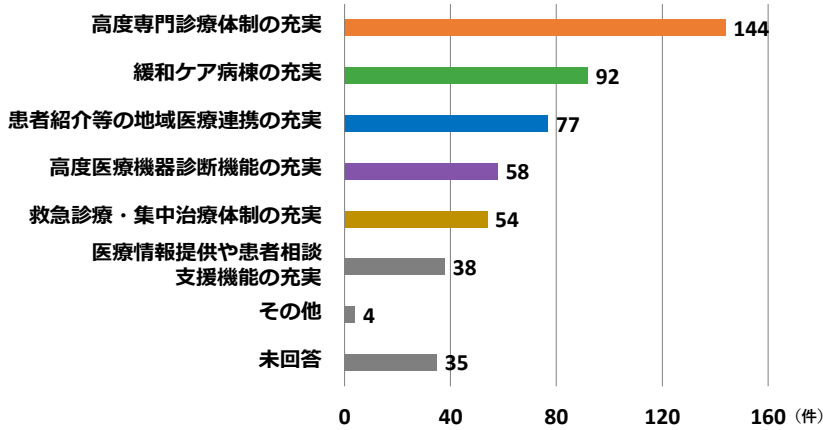
●患者支援センターにどのようなことを期待しますか。
(複数回答)



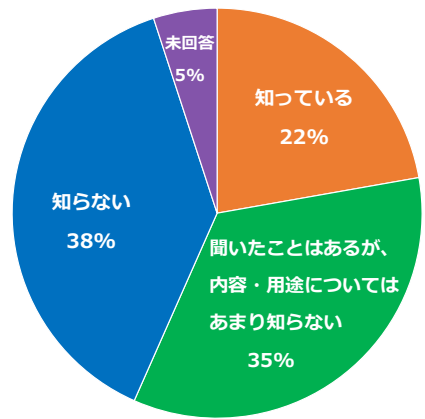
●患者支援センターの対応は
いかがですか。



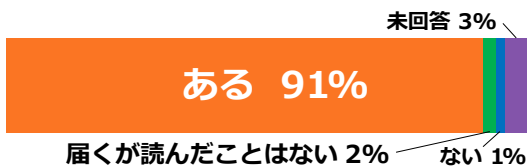
●当院のがんセンターにどのようなことを期待しますか。
(複数回答)



●当院ががん患者さんに発行している
「あんしんカード」をご存じですか。

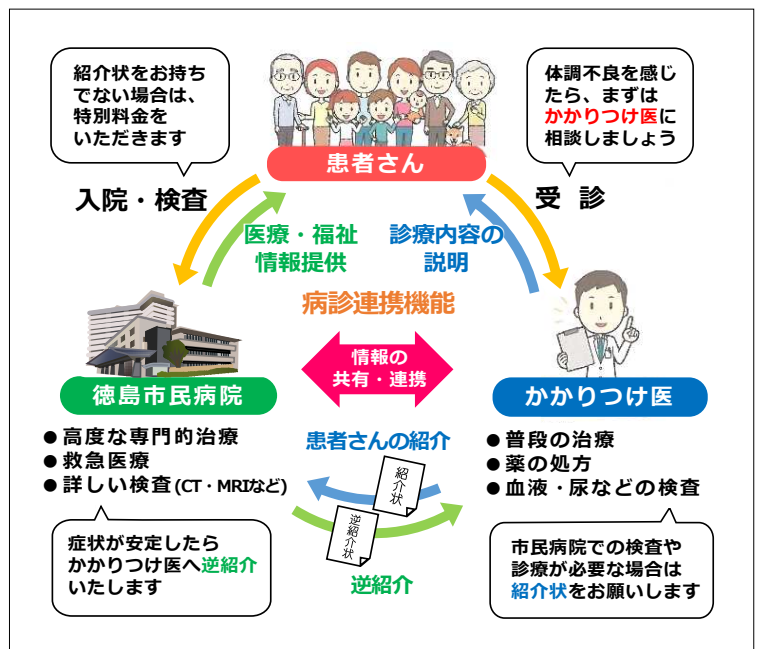


●徳島市民病院だよりを
読んだことはありますか。



1ページ続き 当院は、日々いただくご意見やアンケート結果を真摯に受け止め、引き続き業務改善や支援体制の充実を図ってまいります。今後とも、徳島市民病院をどうぞ宜しくお願いいたします。
(患者支援センター 森田 敏文)

▶患者さんへ切れ目のない医療を提供するためかかりつけ医療機関と当院が連携し、適切な紹介・逆紹介のサイクルを構築・運用する



大規模地震時 医療活動訓練行われる

9月30日、令和5年度内閣府政府訓練に当院DMATが参加しました。南海トラフ地震にて四国4県、大分県、宮崎県が主に被災したという想定で、徳島県も4、5年に1度は主幹会場となるものです。毎年11月に行われている院内大規模災害訓練も本訓練と共に実施し、産学官連携授業の一環として徳島市立高校生を含めた計75名が参加しました。

本訓練に際し、院外コントローラーとして群馬県渋川医療センター救急診療科の高橋 英治先生にお越しいただき、院内コントローラー（森田 敏文Logs.、猪子 美由紀Ns.）と連携し、ご指導いただきました。



訓練終了後、ロビーにて

訓練内容は、前日29日11時に発災、11時53分に津波が到達、当院1階と地下が浸水し、籠城（立てこもり状態）。当日、約24時間が経過しているものの、約30cmの浸水状態。そこへ漂着した数体のご遺体、瓦礫等をかき分け来院してきた歩行可能な傷病者への対応を行うというものでした。規模の大きな政府訓練ゆえのハプニングも起こり、籠城下を想定していた当院に突然、全国各地からDMAT 5隊（静岡、愛知2隊、岐阜、三重）の支援が入ることに決定しました。DMAT隊長（宮本 理司Dr.）、GM（井野口 卓Dr.）の迅速なる判断にて、県西部への患者搬送、母体搬送の受け入れが可能な状況へと内容変更され、つつがなく訓練を実施することができました。

私は災害訓練の企画が初めてであり、構想していた内容を参加者へ明瞭に伝えることが非常に困難でしたが、先輩DMAT（谷川 仁美Ns.）の力を借りてようやく実現する運びとなりました。当院は災害拠点病院であり、定期的な訓練が必須です。今後とも、皆様方のご参加とご協力の程、よろしくお願いいたします。（DMAT隊員 斉藤 辰彦）

第61回 全国自治体病院学会 in 北海道

8月31日～9月1日に、第61回 全国自治体病院学会が北海道札幌市にて開催されました。当院からは薬剤部：伏谷 秀治部長、看護部：岩井 久代師長、猪子 美由紀副看護師長、谷澤 大介看護師、堀内 香奈看護師、事務部：森田 敏文患者支援センター長補佐、舟越 丈記係長、臨床工学室：野口 友希臨床工学技士、リハビリテーション科：米本 真吾の計9名が発表いたしました。

北海道は涼しいと思いきや熱中症になるくらい会場が暑く、ポスターを貼るだけでも汗だくになりました。同じ職種が集まる学会とは異なり、他職種の発表が拝聴できて新たな発見や驚きがあり、刺激的でとても勉強になりました。

発表後、同じような問題で悩んでいる病院のセラピストから相談を受けるなど、小生の発表が解決の一助となったのであれば嬉しく思います。同じ自治体病院で働く様々な方々と、自治体病院ならではの問題について意見交換ができ、今後の参考となりました。

小生のような初回発表者達の発表の裏側には、様々な方々の多大なるご協力、ご助言があったことと思います。代表して感謝申し上げます。



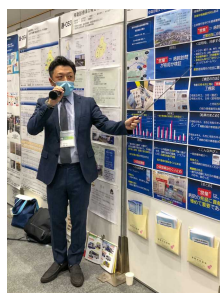
岩井 久代看護師長



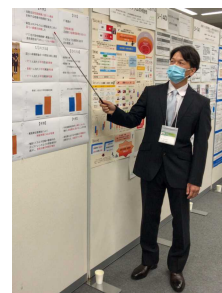
猪子 美由紀 副看護師長



高田 朝美・堀内 香奈
看護師



森田 敏文 患者支援
センター長補佐



米本 真吾 主査

（リハビリテーション科 米本 真吾）

市民病院まつり にぎやかに

10月21日、第11回 市民病院まつりが開催されました。近年は新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止が続いていたため、実に4年ぶりの開催です。

中野院長の力強い開会宣言に始まり、健康相談や体験コーナー、各分野の展示、バザー、コンサートなど、バラエティ豊かな催し物の数々に、院内は終始賑わいを見せていました。

病院まつりは市民の皆さんに当院の活動を知っていただき、より身近な存在に感じていただくための貴重な機会であると、改めて強く実感しました。 (医事経営課 山岡 直哉)



ロビーに楽しげな声が響く



バルーンアート体験・展示



ルーモ弦楽四重奏団の演奏



ヘリポート見学中の様子

研修医日記

リレー企画

初期臨床研修医2年目の鈴木 杏奈と申します。大学6年間を東京で過ごし、昨年4月に徳島へ戻ってきました。徳島大学病院の研修プログラムで、昨年12月末より市民病院で研修させていただいております。出身地徳島に戻ってこられて、とても嬉しく思います。

大学病院以外での研修が初めてであったため、当初は様々な違いに戸惑うこともありましたが、特に当直は初めての経験で、右も左もわからずご迷惑をお掛けしたと思っております。先生方やコメディカルの皆さんから丁寧に指導いただいたおかげで、少しずつ慣れてきたように感じられます。市民病院は他科の先生同士の垣根が低く、職員の方々の雰囲気も良いのが印象的です。特に、皆さんが常に挨拶を心がけていらっしゃるのがとても心地よく、理想的な環境だと実感しています。

循環器内科、消化器内科、小児科、麻酔科で研修させていただいた後、5月から他の医療機関で3か月間の研修を行い、その後再び市民病院でお世話になっております。どの診療科の先生方も手厚く指導していただき、多くのことを積極的に経験させていただきました。充実した日々を送っております。

今年で早くも研修医2年目となったことに驚いていますが、まだまだ未熟であり、自分の知識や技量の乏しさを日々痛感しております。至らない点が多く、度々ご迷惑をお掛けしますが、日々精進してまいりますので今後もご指導ご鞭撻の程、よろしくお願いいたします。

(初期臨床研修医 鈴木 杏奈)



臨床研修医1年目の森下 丈と申します。令和5年に徳島大学を卒業し、4月から徳島市民病院で研修をさせていただいております。まだ6ヶ月ですが、知らないことばかりの自分に多くの知恵と経験を与えてくださる職員の方々には感謝の気持ちでいっぱいです。

自分は出身が高知県で、地元の土佐高校を卒業し大学から徳島県にやってきました。最初はホームシックに悩まされ「卒業後は必ず地元へ帰ってやる」と思っていたのですが、大学生として過ごした6年間で徳島という地の素晴らしさに気付き、ここへ残ることを決断しました。

小学校では水球、中学・高校ではハンドボール、大学ではラグビーと、スポーツばかりしていた学生生活であったと思います。時にはチームスポーツゆえの苦勞やすれ違いもありましたが、その経験が今の自分にとって大きな財産となっています。卒業後は、チームスポーツではなく1人でボウリング(ベストスコア257)とサイクリングに興じています。

さて、自分が市民病院での研修を決断した理由なのですが、それは学生時代の実習で感じた雰囲気や指導の良さです。職種の垣根を越えたコミュニケーションと連携、指導医の先生のご指導、学生実習の受け入れ体制などが自分にとって最も魅力的に感じました。研修を始めてからも同じ気持ちです。まだまだ未熟ですが、ご指導いただけることの有り難さを忘れずに、精進してまいります。ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

(初期臨床研修医 森下 丈)

